

53 摩擦と熱 ー横井庄一・小野田寛郎氏式発火法

(戸田一郎)

(1) 準備するもの

①乾燥した竹

直径5～6cm, 長さ30cm程度1本

②火薬 (綿火薬・黒色火薬・マッチの頭・花火の火薬のいずれでも可)

(2) 使用方法

①太い竹を割り, 長手方向に定規のようにする。

②細い竹を等分に割り, 長手方向の真ん中当りに竹の内部から小指の頭大の窪みを掘る。その際, 竹の表皮をわずかに残す程度までに掘りこむ。光が透けて見える程度。

③別の竹の表皮にナイフの刃を直角に当てて, 表皮を薄くこそぎ取り, 指で揉みな丸めてもぐさのかたまりのようにする。

④定規のように刃のたった竹を下に置き, 窪みをつけた竹の両端を握り, 窪みの部分を下の竹に直角に当てがう。

⑤窪みにはあらかじめ少量の火薬を入れ, 竹のもぐさをつめ, 細長い竹で押さえて握る。

⑥窪みをつけた竹を約10秒間, 下の竹を一気にこすり合わせると, 火薬に「ポッ」と火がつく。この時点で, すばやくもぐさを取り出し, 息を吹きかけると, もぐさに火がつく。

(備考) 火薬を使用せず, 竹の表皮で作ったもぐさをつめただけでも発火するが, その際は, 大変な体力(瞬発力)が必要である。

